

タイトル	藤村久和先生へ送る言葉(退職記念)
著者	寺田, 稔
引用	北海学園大学人文論集, 42: 21-22
発行日	2009-03-25

## 藤村久和先生へ送る言葉

寺 田 稔

藤村久和先生は、昭和59年4月に北海学園大学の教養部に教授として着任され、平成10年4月からは人文学部の教授に、さらに平成11年4月からは大学院文学研究科の教授に着任されました。教養部に着任されてから25年間、アイヌ文化を中心に学部と大学院での教育と本学における課程教育の充実と発展に多大なるご尽力をいただきました。

先生は昭和38年に北海道学芸大学札幌分校を卒業されてから厚田村立聚富小学校と石狩町立南線小学校に勤められて昭和44年4月から北海道開拓記念館に勤務され、そこからアイヌ文化に関する本格的な研究が始まり、膨大な数の研究業績を残されています。先生の研究は、アイヌ民族の日常生活や言語、さらに信仰など広範囲に及んでいます。なかでも、アイヌの人々が創造し、伝承してきた霊やカミの存在とそれを取り巻く事柄が実際の生活にどの様に係わっているのかを丹念に検証し、さらにアイヌ文化と日本の基層文化との関わりについて研究され、その業績は高く評価されています。

先生には、昭和56年にアイヌ文化と日本文化との関わりを新しい視野から追求した研究活動に対して日本文化デザイン会議から第2回日本文化デザイン賞が、さらに昭和60年には著書『カムイチカブ』に対して厚生省から厚生省児童福祉文化奨励賞が授与されています。

先生は、人文学部へ移籍されてからアイヌ文化論やアイヌ文学などの講義を担当され、大学院修士課程ではアイヌ文化論特殊講義演習を担当されてきました。先生の豊富な現地での調査と研究の成果を基盤とした学部の講義や演習では、多くの学生に感銘と学問的刺激を与え、一方で暖かな気持ちで熱心に学生を指導される姿は教育者の模範として多くのことを教え

ていただきました。さらに、先生は、早くから学芸員課程の設置を提言され、平成10年に学芸員課程が設置されてからは北海道開拓記念館時代に得た豊富な知識と経験を活かし、学芸員をめざす多くの学生を育てると共に北海学園大学における学芸員課程の充実と発展に尽力されてきました。

先生とは教養部時代から共に教育に携わってきましたが、教養部時代には総合科学分野の責任者として着任したばかりの私に対して親切・丁寧に指導をしていただき、さらに会議において諸問題を分かり易く説明され、手際良く事務処理されていた姿が今でも強く印象に残っています。

藤村久和先生、長い間ご苦勞さまでした。改めて本学のためにご貢献いただきましたことに対して衷心より感謝を申し上げます。今後も益々ご壮健で、アイヌ文化に関する調査・研究において一層のご活躍を祈念いたします。